

昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育 3

——記録映画『子どもと歌(耳と国防)』について(後篇)——

Prewar Kindergarten and Elementary School Music Education in Sakai City, Part III :

Remarks on the Second Half of the Documentary Movie “Children and Songs : Listning Skills and National Defense”

菅 道 子

Michiko KAN

(和歌山大学教育学部音楽教室)

2013年10月4日受理

はじめに

国民学校芸能科音楽では、「初等科ニ於テハ平易ナル単音唱歌ヲ課シ適宜輪唱歌及重音唱歌ヲ加ヘ」として輪唱や重音唱歌が加えられるとともに、「聴音ノ練習ヲ重ンジ(中略)音ノ高低、強弱、音色、律動、和音等ニ対シ鋭敏ナル聴覚ノ育成ニカムベシ」(国民学校令施行規則第14条)として音楽の諸要素の知覚理解を目的とした基礎教育が取り入れられることとなった。その端緒となったのは1930年代に始まった音感教育、また和音感教育と呼ばれるものであった。中でも和音感教育の先行例として第一にあげられるのは、大阪府堺市の5園の幼稚園と20校の尋常小学校において実施された和音感教育であり、これを主導したのが1934(S9)年～1943(S13)年まで堺市視学の職にあった佐藤吉五郎(1902(M35)～1991(H3))であった¹。

この取り組みは佐藤が『和音感教育』(1940年、1941年改訂版、三喜堂)、『和音感合唱教授法』(三喜堂、1943年)等を顕わすとともに、SPレコード『和音感教育の實際』(日本ビクター、1940年)²の発売、市内尋常小学校のラジオ放送³など、マスメディアの活用によって全国に宣伝されていった。本稿でとりあげる記録映画『音楽と子ども(耳と国防)』(東亜発声ニュース映画製作所、1940年)も宣伝普及のためのツールの一つとして作成されたものである。

1930年代はマスメディアの普及によって、政治、文化のメッセージが大量・高速に伝播されるようになった時代である。マスメディアは為政者や権力者からのイデオロギー教化の道具立てというベクトルだけでなく、一般の個人や団体等がラジオ出演や本の出版を通じてマスメディアの発信者となり、彼らからのメッセージや技術を広範囲に伝播し影響を及ぼしていくベクトルも生み出していった。堺市という地方都市の行政機関乃至そこに関わる人々にとっても、映画は自らの取り組みを広報するための効果的な媒体であったろう。『音楽と子ども(耳と国防)』の冒頭テロップには、堺市市長：河盛安之助、堺市学務課長：今西四良、指導に堺市視学：佐藤吉五郎の名前が協賛としてあげられ

ている。そして次のテロップには音感教育の趣旨が以下のように示されている⁴。

「子供は音楽が好きです。珠に歌ふことには優れた天分を持ってゐるのです。この天分をより高く伸ばすには美しい良い音楽を与へると同時に音に対して鋭敏となる訓練をしなければなりません。

音に敏感で正確な耳こそ音楽のみならず、我が国防・科学・産業等凡ゆる方面の発展的基礎となるのであります。

これはその新音楽教育の一つの実例であります即ち音感教育と謂はれてゐるものでその音名の呼び方には日本語のイロハ独逸語のABCなどありこゝでは独逸音名が使用されてゐます」

彼らは堺市での和音感教育実践を子どもの音楽的な「天分をより高く伸ばす」ための先駆的な音楽教育実践としてだけでなく、「我が国防・科学・産業等凡ゆる方面の発展的基礎」という国家的使命をもった新たな取り組みとして全国に認知させんとし携わっていったと考えられる。

また、この記録映画は堺市立第一幼稚園と英彰小学校を撮影地として和音感教育の実際の様子が撮影されている。プロモーション用の記録とはいえ、1940年の児童の声や実践の一端を映像と「音」によって把握することのできる基調な資料である。そこで本稿では、記録映画『子どもと歌(耳と国防)』(1940年、東亜発声ニュース映画製作所)のうち、拙稿で扱った幼稚園部分の記録⁵に続き、後半の小学校部の記録を再録することとする。

1. 堺市20校の尋常小学校における和音感教育の実施

この記録映画が撮られた時期の堺市の尋常小学校では、どれくらいの児童たちが和音感教育を受けていたのだろうか。

佐藤は1940(S15)年1月に「和音感教育実施成績報告」の中で、1937(S12)年の4月より堺市の20校の尋常

小学校、5園の幼稚園において和音感教育を開始し、1940年1月の時点で受講する児童は15,052名、和音感教育の再教育をした担当教師は144名の体制であったと報告している⁶。一方『堺市教育100年のあゆみ』を見てみると1941年当時堺市の尋常小学校として確認できたのは18校であった。この18校の児童数は合計22,716名、幼稚園は5園で幼児数の合計1,042名であった⁷。

正確な人数を把握することはできないが、一年間に1万5千人余から2万人余という大勢の一般児童が和音感教育を体験していたことになる。

各小学校で行われた和音感教育の実際は、幼稚園に比べると資料がほとんど残っていない。その理由の一つとして、和音感教育の教材や指導法の開発が第一幼稚園の保母たちによって行われていたことがあげられる。

佐藤は「私の内弟子に学校教育の先発隊としてのいろいろの理論を実際化して研究し、授業の具体化、興味化の方法としては幼稚園の研究成果をあて、一般小学校には、それらのうちもっとも簡単に効果的な方法を摘出して実施した」と述べているように⁸、和音感教育の具体的な内容方法は幼稚園の保母たちによって発案されていたのだった。とりわけ5園の幼稚園のうち、研究の中心となったのは第一幼稚園であり、その保母たちの実践によって保育案は改訂されていった。佐藤の著書『和音感教育』(1941年)と『和音感教育改訂

版』(1942年)を比較してみると、例えば、1941年版の保育実施案では、C、D、E、F、Gと音階順に学習していた音名当てを、1942年版では歌遊びで使う五指の順(親指がF(またはへ)、第2指がD(または二)、第3指がH(またはロ)、第4指がG(またはト)、第5指がE(またはホ))となるので、F、D、H、G、Eに改訂しており、具体的な実践経過に基づいて改善した成果をまとめていることがわかる。

もう一つの理由としては、上記にも関連するが、佐藤が和音感教育を「児童の全生活の中」、「遊びの中」で行なうべきとの方針をもっていたことがあげられる。佐藤は和音感教育の指導原理として次のものを「五大原則」としてあげていた⁹。

- 一、音名読み及びリズム読みの力
- 二、和音聴音、和音の記憶
- 三、分散和音唱力(分割唱力)
- 四、単音抽出力(分離唱力)
- 五、和音聴音併用リズム訓練

音名やリズム読みの読譜や和音の聴音や様々な和音唱の練習は先駆者であったピアニスト園田清秀やピアノ教育家笈田光吉等の理論を反映させたものである。

その上で、佐藤は「和音感教育に於ては、理知的に詰め込む事が禁物であります。五大原則が機械的にな

表1 1930年代に音感教育を開始した堺市の尋常小学校18校、幼稚園5園

1941年当時の堺市立尋常小学校						1942年当時の堺市立幼稚園		
番号	校 名	児童数	番号	校 名	児童数	番号	園 名	幼児数
1	錦尋常小学校 (久間町東)	1043	11	舩松尋常小学校 (大仙西町)へのまつ	856	1	第一幼稚園 (甲斐町東)	303
2	錦西尋常小学校 (神明町西)	1429	12	三宝尋常小学校 (三宝町)	1068	2	第二幼稚園 (柳之町西)	196
3	殿馬場尋常小学校 (櫛屋町東)	1263	13	錦綾尋常小学校 (錦綾町)	1338	3	第三幼稚園 (南旅籠町東)	213
4	向陽尋常小学校 (榎元町)	1499	14	安井尋常小学校 (南安井町)	2012	4	翁橋幼稚園 (北翁橋町)	184
5	熊野尋常小学校 (熊野町東)	1076	15	神石尋常小学校 (石津町)	839	5	向陽幼稚園 (北向陽町)	146
6	市尋常小学校 (市之町)	1078	16	五箇荘尋常小学校 (新堀町)	916			
7	英彰尋常小学校 (寺地町西)	1303	17	百舌鳥尋常小学校 (百舌鳥梅町)	1054			
8	少林寺尋常小学校 (少林寺町東)	1422	18	金岡尋常小学校 (金岡町)	892			
9	南旅籠尋常小学校 (南旅籠町)	1814						
10	湊尋常小学校 (東湊町)	1814						
				合 計	22716名		合 計	1042名
※1937(S12)年7月1日に堺市に隣接の浜寺町、大鳥町、路尾、東百舌鳥、深井、八田荘の4か村が合併し8校が増えている。20校のうちどの2校が加わったのか未確認。								
(堺市教育100年のあゆみ刊行委員会『堺市教育100年のあゆみ』大阪書籍、1973年、pp.239-241)								

る事が禁物であります。児童の全生活の中に、ばら撒かれる様立案されねばなりません。興味の中に努力の意識を持たぬ様仕向けねばなりません。然しその具体的な遊びの中に常に五大原則が毅然として存在せねばならぬのです」と述べ¹⁰、「児童の全生活の中」、「遊びの中」で実施することを主張していた。これは佐藤の提案した和音感教育の特徴的な点である。そのため、幼稚園や低学年を対象とした遊び歌や遊戯活動的な具体的指導法が堺市の和音感教育の特徴として注目されるようになったといえるだろう¹¹。

それに対し、小学校ではどういった和音感教育を実

践していったのか、その実態解明については今後の課題としたい。その点からも本映画の小学校児童を対象にした和音感教育は重要な基礎資料となるものである。

2. 『子どもと音楽(耳と国防)』後半(小学校の部)の記録

本稿では、『子どもと音楽(耳と国防)』のうち、幼稚園部分(約20分中の11分)に続く後半の小学校部分(約9分)の記録を再録する。

記録では時間と場面ごとの分類、内容、参考資料の項目を作り掲載している。

表2 『子どもと音楽(耳と国防)その1』後半(小学校の部)の記録

(筆者の加筆した説明) ●場面、♪曲

時間	場面	分類	『子どもと音楽(耳と国防)その1』のうち小学校の部の内容	参考資料
11:48	①	登校風景	<p>●二部合唱を歌いながら登校する児童たち</p> <p>♪楽曲名不明 変ト長調、4分の4拍子、無伴奏</p> <p>東の空に もゆる日の出 のぼる朝日に 海(国)のしるし 見よや世界に 光さして かざしかおりを 花にあとう</p> <p>夜明けの窓に 映る日の出 のぼる朝日に 海(国)の誇り 見よや世界に 光さして 深きめぐみを 人にあとう</p>	
12:54	②	朝礼	<p>●校庭朝礼</p> <p>(校庭で入り乱れて騒ぐ児童たち。鐘が鳴らされ、整列。職員も整列している。号令とともに「おはようございます」の挨拶の後、ラッパの音に合わせて整然と行進し、学級ごとに退場)</p>	
13:50	③	唱歌室	<p>●唱歌室で立って二部合唱を歌う児童たち</p> <p>♪《夏の光》作曲：ホーソン 作詞：二宮龍雄</p> <p>へ長調、3/4拍子、ピアノ伴奏</p> <p>四方の山に野に 光かがやき 緑さわやかに 夏ははや来ぬ</p>	
14:20	④	校庭	<p>(体操服で、二列に並ぶ児童たち。先生が黒板を示している。)</p> <p>○黒板の板書</p> <p>(「空中戦遊び 飛行隊」と題され、五線譜上に和音が書かれている。それぞれの和音の下に「白組一班」「白組二班」「赤組一班」「赤組二班」と書かれている)</p> <p>教師：白組、一班 児童：CEG 教師：白組、二班 児童：HDG 教師：赤組、一班 児童：GHD 教師：赤組、二班 児童：CFA</p>	

14:20	④	校庭	<p>(先生が中央のオルガンで和音を順に鳴らすと、対応する班の児童が和音の音を言いながら立ち上がり、腕を横に広げる)</p> <p>オルガン：CEG 児 童：CEG オルガン：CFA 児 童：CFA オルガン：HDG 児 童：HDG オルガン：GHD 児 童：GHD</p> <p>(ホイッスルの音を合図に、児童たちが雄叫びをあげながら入り乱れてハチマキを奪い合う。)</p> <p>(二列になって行進、バックでは二部合唱のBGM)</p>	
15:18	⑤	唱歌室	<p>●唱歌室で黒板に向いて座る児童たち</p> <p>○白板に「音名読練習表」 音符が多く並ぶ</p> <p>(教室。先生がピアノを弾き、児童たちが答える)</p> <p>教 師：では、先生の叩く音を言ってごらん下さい</p> <p>ピ ア ノ：DGH 児童たち：DGH ピ ア ノ：FGHD 児童たち：FGHD ピ ア ノ：DFA 児童たち：DFA ピ ア ノ：FAD 児童たち：FAD</p> <p>(先生の弾く和音を、一人ずつ立ち上がって答える)</p> <p>ピ ア ノ：EGC 児 童：EGC ピ ア ノ：DFGH 児 童：DFGH ピ ア ノ：EAC 児 童：EAC ピ ア ノ：FHD 児 童：FHD</p> <p>教師：女子は高いほう、男子は低いほうを歌ってください</p> <p>○黒板に二部合唱の曲と歌詞が書かれている</p> <p>ノベハハルカーゼ ソヨソヨファイテ ツークシツイツイ ヨメーナモマジル ヒートツミツケタ スミレヲツメバ カーゴニムラーサキ ハルノイロ</p> <p>♪《摘草》作曲：長谷川良夫 作詞不詳 ト長調、3/4拍子 (新訂尋常小学唱歌(三学年))</p> <p>野辺は春風 そよそよ吹いて 土筆つつい つい よめなまじる 一つ見つけた すみれを摘めば 籠にむらさき 春の色</p> <p>(鐘が鳴らされる)</p> <p>教師：ではこれから、海岸へ行って合唱をしましょう (教室を出る児童たち)</p>	  
16:51	⑥	海辺	<p>●海辺を散歩しながらアカペラで二部合唱</p> <p>♪《祈りの歌》作曲作詞者不明</p> <p>ハ長調、2/2拍子</p> <p>君の ために 命ささげて ○○○ ものども ○○○ 戦こう つわもの</p> <p>守らせたまえか 千代よろずの御神よ ○○○○ 御霊よ 導きたまえ 導きませ 手柄を たて 帰る その日 まで 御霊よ こころ 込めて 祈らん ○○○ ○○○</p>	

16:51	⑥		(合唱をBGMとして、風景が次々に映し出される) (夕日の砂浜。松ごしに、並べて置かれた船) (波打ち際を並んで歩き、貝殻を拾う児童たち) (徐々に集まり、海に向かい斉唱) (横一列にきれいに並び、海に向かい歌う児童たち)	
		テロップ 完 海 東亜発声ニュース映画製作所作品		
		辺		

(採録協力者 名田青麻 小田原聡志)

3. 映像の中の教材と実践の特徴

前半の映像は6つの場面からなっている。①校外から児童たちが二部合唱を歌いながら集団で楽しそうに登校する場面、②校庭で入り乱れて騒ぐ児童たち。鐘が鳴り整列し、号令とともに挨拶の後、ラッパの音に合わせて整然と行進し、学級ごとに退場する場面、③唱歌室での《夏の光》(作曲：ホーソン 作詞：二宮龍雄)を歌う場面、④CEG、HDG、GHD、CFAの4種の和音を音高無しで唱えて練習した後、校庭でのオルガンの和音を音を聴き当てて各班が立ち上がり、笛の合図で「空中戦遊び 飛行隊」の活動を開始する場面、⑤唱歌室で黒板にある「音名読練習表」の和音を示すと、次々に児童が一人ずつ立ち上がり、音高無しに唱えて練習し、その後、《摘草》の二部合唱を歌う場面、⑥海辺を児童たちが散歩しながら、《祈りの歌》をアカペラの二部合唱で歌う場面、である。

特徴的なことの一つは、児童たちの一日の生活全体を視野にいれ、様々な活動の場面を入れていることがあげられる。上記に示したように、校外での登校風景、校庭での行進、唱歌室での合唱、再び校庭での体育及び唱歌室での和音読練習二部合唱、校外(海辺)での合唱、というように、唱歌室内外、学校内外と活動の場面を変え、佐藤が掲げた「生活全体の中で」の方針を反映させたと考えられる。

特徴的なことの二つ目は、「音の教育」と「音楽の教育」の二つの音感教育が含まれているということである。小学部の内容は、幼稚園において各クラスの担任・保育士の指導のもとに子どもたちの活動が展開されていたものとは異なり¹²、一つの脚本をもとに演出されている印象の強いものであった。その流れの中で、校庭でのラッパの音での行進や体育「空中戦遊び 飛行隊」での和音の聴き分けなどは、信号音としての

聴き分け、「音の教育」であり、登校時や海辺での二部合唱や唱歌室での和音読み練習は「音楽の教育」として見ることができる。

即ちこのことは、堺市の絶対音感の獲得、和音感の獲得を目指す音楽教育の中に、「天分をより高く伸ばすには美しい音楽を与へる」とする音楽教育と「我が国防・科学・産業等凡ゆる方面の発展的基礎」となる音の教育の両側面が具体化されていたということでもある。④体育の「空中戦遊び、飛行隊」は明らかに軍国主義的な題材であり、最後の⑥の《祈りの歌》の「君のため 命ささげて 戦うつわもの」の歌詞が歌われている教材も同様である。しかし、《祈りの歌》の音楽自体はアカペラでの二部の響きを素朴に紡ぎだす美しい合唱であり、言い難い違和感を醸し出す場面となっている。

特徴の三つ目には、遊戯化を中心にした幼稚園に比べて小学校部での内容は、和音聴音や和音読みなど基礎訓練的なものに限られていたことがあげられる。こうした訓練が児童の興味を引き付ける実践にならなかったことは、当時児童であったA子氏(1932(S7)年2月1日生まれ、1938(S13)年に熊野小学校に入学)への聞き取りからもうかがえる。A子氏は、小学校3年生頃から盛んになった小学校での音感教育の記憶が鮮明である。そして「音を聞き分ける自信がなく、みんなと一緒に答えても、一人では聞き分けられなかった」、「女学校へ入学した時、私たちは音感教育の盛んだった小学校から入ったので、当時の先生に後ろへ立たされたことがなかった。多くの友達が授業中後ろに立っていた」ことを「和音感教育の大変だった思い出」として語っている¹³。一方挿入されている合唱はハ長調、ヘ長調、ト長調、変ト長調であるが、和音訓練で扱っているのはハ長調の主要3和音に限定されており、ど

の学校でも取り組める基本的な内容であったことも特徴的である。

特徴の四つ目には、冒頭テロップでも、「その音名の呼び方には日本語のイロハ独逸語のABCなどあり、こゝでは独逸音名が使用されてゐます」とあるように、1940年段階では独逸音名で和音感訓練が展開されていたことがあげられる。

その他、本映画の小学校の部で使用されていた楽曲は次の4曲であった。

《楽曲名不明》「東の空に〜」、《夏の光》4/4拍子、変ト長調(作曲：ホーソン 作詞：二宮龍雄)、《摘草》3/4拍子、ト長調(作曲：長谷川良夫、作詞不詳、新訂尋常小学唱歌(三学年))、《祈りの歌》2/2拍子、ハ長調(作曲・作詞者不明)。

まとめにかえて

小学校部の和音感教育の内容を概観すると、和音読訓練の他は、オルガン伴奏、アカペラも含めて二部合唱を歌うものが多い。1930年代後半から1940年にかけてこうした歌声が公立小学校ですでに作られていたことは一つの成果であったと言えるだろう。他方、和音聴音を取り入れて班の動きを指示した体育の「空中戦遊び 飛行隊」活動、ラッパの合図で行進する朝礼場面等、音で集団の動きを作るという行動訓練の道具としての使われ方は、国防教育に向けて教育の一端を紹介するものでもあった。

『子どもと歌(音楽と国防)』の小学校部の内容を上記のように概観すると、それは「平易ナル単音唱歌」から「輪唱及ビ重音唱歌」への発展に向けた二部合唱の披露など「音楽の教育」の成果を示す側面と、音による集団行動訓練や戦時教材の扱いなど「音の教育」によって国防教育の一翼を担おうとする側面と、今日からみれば奇異さをもつ二側面が両立しながら実践されていった記録である。前稿でも述べたがその奇異さは、歴史的な時間を経て、距離をもってみなければ自覚することは困難である。しかし、学校という正統性を付与された場での音楽教育がそうした奇異さを生み出す土壌を日常的にかかえていることに改めて気づかされる。

渡辺裕は近年の文化研究の立場から文化の『創出』について「人々の心性がどのようなメカニズムで形づくられ、また変容するのかといったことを、単に支配者によるイデオロギーの押しつけと考えるのではなく、いろいろなメディアをはじめ、芸術やスポーツなども含めた様々な要素が相互に関わりながら、『文化』が全体的なシステムとしてどのように動いていったのかという問題としてみてゆこうとする考え方が主流」になりつつあると述べている¹⁴。

戦時体制の中での国家権力の意図を体現するような教育の実施は、「支配者によるイデオロギーの押しつ

け」ではなく、私たち個々人の自己欲求や信念を追い求める心性が芸術やスポーツなどを含めた様々な要素の絡み合う中で作られていくということだ。信念に基づいて教育に携わる一般の教師たち、また、懸命に歌を歌う子どもたちも、その時代の価値観の滲む社会全体のシステムの中で権力者側の意図を体現する主体になり得るということを、この映画は映し出している。

《参考文献》

- 最相葉月『絶対音感』小学館、1998年。
鈴木慎一郎「佐藤吉五郎による幼児への和音感教育実践—岡山県女子師範学校で生まれた課題意識から—」『白梅学園大学・短期大学紀要』48号、2012年
松井尚子「国民学校時代の音感教育—滋賀県・島国民学校における古武善松の実践から—」『滋賀大学大学院教育学研究科論文集』第15号、2012年。
河口道朗「音感教育の特徴と変質過程」『音楽教育論叢 第Ⅱ巻 音楽と近代教育』開成出版、2005年。
山下薫子「音感教育の功罪」河口道朗監修『音楽教育論叢 第Ⅰ巻 音楽の思想と教育』開成出版、2005年。
清秀先生の愛弟子編『大分県の生んだピアノの巨匠 園田清秀・高広先生の譜』同編集者出版、1995年。
木村信之『音楽教育の証言者たち 上 戦前を中心に』音楽之友社、1986年。

注

- 1 佐藤吉五郎『和音を基調とする総合音楽教育法』音楽之友社、1958年、奥づけ。
- 2 このSPレコードについては拙稿「昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育1—音源資料SPレコード『和音感教育の実践』について—」『和歌山大学教育学部 人文科学』第62巻(2012年2月)を参照。
- 3 堺市立英彰小学校では1941年5月にラジオ放送のためのでかけている『沿革史明治34年〜昭和30年』
- 4 映画『子どもと歌(耳と国防)』(東亜発声ニュース映画製作所、1940年)より、冒頭テロップ。
- 5 拙稿「昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育2：記録映画『子どもと歌(耳と国防)』について(前篇)」『和歌山大学教育学部紀要 教育科学』第62巻(2012年2月)を参照。
- 6 佐藤吉五郎「和音感教育実施成績報告」澤崎定之編『教育音楽』1月号、日本教育音楽協会発行、1940年1月、pp.64-65
- 7 堺市教育100年のあゆみ刊行委員会『堺市教育100年のあゆみ』大阪書籍、1973年、pp.239-241
- 8 前掲(注1)、p.18
- 9 佐藤吉五郎『和音感教育 改訂版』1941年、三喜堂、pp.129-130
- 10 同上、p.129
- 11 例えば、映画を作成した1940年当時園長をしていた北山ナホは、その後1941年4月〜1942年2月まで9回、『国民保育』(1(4)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)、(11)、2(2))に第一幼稚園の音感教育の実践を報告している。
- 12 前掲(4)、参照。
- 13 1932(S7)年2月1日生まれ(1937(S12)年に1年保育に入園)のA子氏へのインタビュー。2011年6月23日(水)於：堺市市役所
- 14 渡辺裕『歌う国民 唱歌、校歌、うたごえ』中公新書、2010年、pp.11-12